

巻いてばかりではつまらない

大源太山 大源太川七ツ小屋裏沢

岩田

【日時】 2008年7月20日

【メンバー】 L岩田、山口、高橋

このところの忙しさで山からすっかり遠ざかってしまった。明らかに山、沢、岩に対するやる気が失せていくのがわかる。このままではいかん！と思いつき一日だけでもどこかに行こうとメンバー募集してみると山口さん、高橋さんが行ってくれることになりパーティー成立。当初は中アの細尾沢を考えていたが長くなりそうなので谷川近辺の沢を探していたら大源太山周辺にはまだ行ったことがなかったのでここに決定。

前夜のうちに大源太の登山口に入る。朝起きて準備をしていると女性2人組のハイカーが早くも登っていった。登山口から20分ほどで入渓点に到着。アプローチが近くてありがたい。3~5mの滝を難なく登っていくと30分ほどで七ツ小屋裏沢の出合に到着。ここからは連曝帯が続くということなので気を引き締める。

最初の5m滝は簡単に超え、次の釜は腰までつかって通過。そうすると3mCSの滝が現れる。記録ではショルダーを使って登ったパーティーもいるらしいが水量が多くてそれはちょっと厳しそう。我々は右から高巻いたがこれがかなりの大高巻になってしまい、最後は30mロープいっぱいでの懸垂下降で沢に降りた。懸垂下降をする前から次の滝も見えたのだがあれなら登れるだろうと思っていたが甘かった。思ったより水量が多くなかなか厳しい。ここは私が右壁を登る。ホールドは細かいが上部のガバを掴んでエイヤと体を上げてなんとか登れた。しかし、後続の高橋さんたちにはかなり難しかったようだ。うーん、CSの滝と一緒に巻いた方が正解だったかと後悔してみるがいまさら遅い。

さらに一段上がり太い流木に支点を取ってゴボウでなんとか登ってもらった。かなり苦勞させてしまったが沢登りにはこれくらいの苦勞があってもいいだろう（と、自分を慰めてみる）この後も3m、10mの滝が続くがこれは明らかに登れないので右の草付きから高巻く。難しくはないが最後



が不安定で滑りやすいので注意が必要だ。これで連曝帯は終了のようだ。ひとまず安心だがちょっと物足りなかった。

ここからは沢は平凡となる。滝がいくつか出てくるが難しくはない。途中にスノーブリッジも出てきた。今年は残雪が多いのだろうか。途中の7m滝は登れないので左から高巻いたがこれが思ったより急なヤブで最後のトラバース箇所でザイルを出してしまった。さらに平凡な沢を登っていくと後半のお楽しみ、池塘が現れる。稜線に出ることに集中していたら見つけることは出来なかつただろう。さすがに読図の鬼・山口さんである。池塘は小さいながらも穏やかで和ませてくれる。沢で池塘は何度か出くわしたことがあるがなんでこうも和ませてくれるのだろうか。不思議である。



池塘をあとにするとヤブが始まる。笹ヤブをひたすら漕いでいくと遠くに立派な大源太が姿を見せる。いつ見ても立派である。ひさ

しぶりの山行という高橋さんはこのヤブでかなり苦労していたがなんとか稜線に到着。ここで初めて気がついたが後続パーティーがいたようだ。聞けば群馬の山岳会の人たちだそうだ。

稜線からは大源太を越えるのは大変なのでシシゴヤノ頭からの登山道を下山することにしたが、これがアップダウンが少なく、緩やかで歩きやすい。なかなかお勧めの道である。

帰りはおなじみ岩の湯につかって汗を流す。日帰りではあったがやはり沢は楽しい。どんなに忙しくても月1回は行けるようにしたいもんだ。

【グレード】2級

【行程】7/20 登山口 (5:55) ~入渓点(6:55)~稜線(12:55)~登山口(15:50)

【地図】茂倉岳